Part 1

中学校の部

第4章

キャリア教育推進に
つなげるための
プログラム開発

◆第１節　各教科の科目目標におけるキャリア教育の取組み

・キャリア教育は、現在の学校教育を見直す理念を示すものであることから、その活動は特定の新しい教育活動を指すものではなく、学校教育全体の活動を通じて体系的に行われる必要があり、特に、子ども・若者が実社会を体験し、それを基に自ら考える活動が不可欠である。
・各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動が、それぞれ社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力としての「基礎的・汎用的能力」の育成にどのように貢献できるのかを考え、実践に移すためには、まず学習指導要領に示される各教科等とキャリア教育との関連性について正しく理解し、その上で、各教科等の特質と単元や題材などの内容を生かした創意・工夫が必要となる。

（出典：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

１　国語

①　教科の目標

・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月

②　キャリア教育の取組み

・基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる力であり、自分のおかれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力でもある。
・「人間関係形成・社会形成能力」は、相手の立場や考えを尊重し合うことのできる能力を基本としていることから、この力の育成は、実際に話したり聞いたりする音声言語活動を重視することが大切である。
・常に目的意識や場面意識をもって「話す」「聞く」ことにより、生徒は目的や場面の状況を踏まえ、相手に応じて生き生きと話したり、聞いたり、話し合ったりすることができる能力と、豊かな人間関係を築いていくことのできる能力を身に付けられる。
・「基礎的・汎用的能力」の育成に当たっては、言語活動を通して国語科で培う力が必要不可欠であることから、国語科での言語活動は大きなカギを握っている。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する国語科の指導内容の例】

学年/能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	「話すこと・聞くこと」 ・全体と部分，事実と意見との関係に注意して話を構成し，相手の反応を踏まえながら話す。	「話すこと・聞くこと」 ・質問しながら聞きとり，自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	「書くこと」 ・考えや気持ちを，根拠を明確にして書く。	「読むこと」 ・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取る。
第2学年	「話すこと・聞くこと」 ・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し，論理的な構成や展開を考えて話す。	「読むこと」 ・文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	「書くこと」 ・説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書く。	「読むこと」 ・多様な方法で選んだ本や文章などから，適切な情報を得て，自分の考えをまとめる。
第3学年	「話すこと・聞くこと」 ・場の状況や相手の様子に応じて話すとともに，敬語を適切に使う。	「読むこと」 ・文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつ。	「話すこと・聞くこと」 ・資料などを活用して説得力のある話をする。	「書くこと」 ・社会生活の中から課題を決め，取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに，文章の形態を選択して適切な構成を工夫する。

※〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導と関連させて指導することが基本になる。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

２　社会

①　教科の目標

・広い視野に立って、社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

・地理的分野：①日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。②日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。③大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。④地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

・歴史的分野：①歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。②国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる

文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。③歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化，生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。④身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

・公民的分野：①個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。②民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。③国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。④現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

② キャリア教育の取組み

・社会科の学習は、単なる知識の習得にとどまらず、生徒が自ら様々な社会的事象から課題を見出し、その課題を解決するために、身に付けた知識や技能を活用して追究・まとめ・発表する過程を通して、社会に対する関心を高めるとともに、社会の形成者として望ましい態度を身に付けることを目指している。

・このことは、生徒が「生きる力」を身に付け、激しく変化する社会の中で、それぞれが直面するであろう様々な問題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の意義と深く結びつくものである。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する社会科の指導内容の例】

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
・課題追究の中で，様々な意見を取り入れて考えを深める。 ・地域の一員として地域の課題に取り組み，自分なりの解釈を加えての論述や意見交換をする。 ・ポスターセッションなどで互いの意見を交換する。 ・郷土の施設の活用や地域の人々とのふれあいをもつ。 ・現代社会と自分の生活とのかかわりについて考える。 ・現代社会の課題とその解決策について話し合う。	・日本と世界の諸地域，都市部と農村部など地理的特色をとらえる上で，様々な視点があることに気付く。 ・身近な地域の歴史など様々な視点から歴史をとらえる。 ・歴史的事象や歴史上の人物のつながりをとらえる。 ・自由と権利，責任と義務の関係について理解し，現代社会の仕組みについて考える。	・様々な統計資料や地図を比較・関連させることによって，資料の読解力や読図力，作図力を身に付ける。 ・調査や観察の結果を主題図やグラフなどにまとめる。 ・年表を使って時代の流れをまとめる。 ・歴史的事象の背景などを解釈する。 ・歴史的事象の原因や結果などを自分の言葉でまとめる。 ・シミュレーションやロールプレイなどを通し，様々な社会事象の仕組みを理解し，より良い在り方について考える。	・様々な産業の種類や内容，課題などについて理解し，そこでの生活の様子に目を向ける。 ・日本や地域が抱える課題や将来像について考える。 ・日本の伝統や文化への関心を高める。 ・人々の日々の営みに目を向ける。 ・歴史上の人物の生き方について自分と比較して考える。 ・社会生活の様々な仕組みや現代社会の課題について理解し，身近な生活や自分の将来と結び付けて考える。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

３　数学

①　教科の目標

・数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・数学的活動は、具体物を用いて考えたり、実際に体験したりするなどの活動から、思考を中心とした活動までの幅広い範囲の活動を含む。この数学的活動の中に、「説明し伝え合う活動」があり、中学校第３学年まで各学年それぞれにおいて実施することが求められている。

・数学的活動を、例えば、基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」の具体的要素であるチームワークやリーダーシップ等を育むという視点で活動を組み立てることで、各領域（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）が有機的につながりをもち、また３年間を通した全体計画にも適切に位置づけることができるようになる。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する数学科の指導内容の例】

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
数学的活動を例にして（第1,2,3学年を通して）		「A数と式」を例にして	「B図形」を例にして
数学における「説明し伝え合う活動」では，問題を考察する際，自己内対話に終始せず，他者に説明し伝え合いながら学習を進めることで，一人では気付かなかった新しい視点が得られたり，考えを質的に高めたりすることができます。 このような経験は，仕事をする上で基礎となるコミュニケーション・スキルの育成につながります。	数学的活動は，基本的に問題解決の形で行われます。 そこでは粘り強く考え抜くことが必要になり，成就感や達成感などをもとにして自信を高め自尊感情をはぐくむ機会も生まれます。子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中，「やればできる」と考えて行動できる力は，このような活動を通して得られると考えられます。	第1学年における文字の学習は，現実の世界における事象を数学の世界における関係として記述する手段として大きな意味をもちます。 この文字の学習により，連立二元一次方程式(第2学年)，二次方程式(第3学年)などの手段を得，考察の対象が広がるとともに，様々な事象の本質的な関係をより簡潔かつ明解にとらえることができるようになります。 このような学習を通して，従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力がはぐくまれます。	図形や空間についての学習では，第1学年で論理的な考察と論証及びそれを表現することへの関心や意欲を高め，第2学年では，論理的に筋道を立てて正しい推論ができるようにします。そして，第3学年では，図形に対する直観力や洞察力とともに論理的に考察し表現する能力を伸ばします。 このように，段階的にかつ目的を明確にして学習を進めることで，その良さを実感することができます。そして，将来，社会における様々な課題に取り組む際も，自ら段階的に目標を定め，進んでいこうとする態度を養うことができます。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

４　理科

①　教科の目標

・自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・理科で学ぶ内容は日常生活や将来の実社会での生活と深く関連しており、理科の学習で養う科学的な見方や考え方は、将来の職業生活にも生かされるという意味で、理科の学習は、キャリア教育と密接につながっている。

・日常生活や将来の実社会での生活とのかかわりの中で、理科を学ぶ意義や有用性を実感できるよう、職業や今後の学習との関連に触れ、様々な課題に自立的に対応する力を育成していくことが大切である。

・中学校理科の目標に含まれる「自然の事物・現象に進んでかかわる」ことは、日常生活におけ

る科学の有用性を実感させる意味からも極めて重要であり、「探究する能力や態度」を身に付けることは、激しい変化が予想される社会の中で生涯にわたって主体的、創造的に生きていく上で不可欠であるだけでなく、生きる力の育成につながる。また、「観察、実験など」に際しては、計画を立て、他者と協力して取り組ませ、得られた情報を整理し課題解決に活用できるようにすることは、キャリア教育の視点からも重要である。「自然の事物・現象についての理解を深め」させるためには、日常生活や社会とのかかわりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒自らの力で知識を獲得し、理解を深めていくようにすることが大切であるし、「科学的な見方や考え方を養う」こととは、科学的な知識や概念を用いて合理的に判断するとともに、多面的、総合的な見方を身に付け、日常生活や社会で活用できるようにすることである。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する理科の指導内容の例】

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
理科全般	○他者と協力・協働して，グループで観察・実験を行う。	○自己の役割を理解し，主体的に観察・実験に取り組む。	○自然の事物・現象に疑問を見出し，課題を設定し，計画を立てて課題を解決する。	○理科で学んだことや科学的な考え方が様々な職業や社会生活，その後の学習と関連していることを理解し，自らの生き方に生かす。
第１分野	○実験レポートの作成や発表により，互いの考えを理解し合う。 (例)身の回りの物質	○物質やエネルギーに関する事物・現象について，主体的に進んで学ぼうとする。	○自然の事物・現象に関する探究的活動を行い，分析・解釈して科学的に解決する。 (例)運動とエネルギー	○科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め，科学的に考えていこうとする。 (例)電流とその利用 化学変化とイオン 科学技術と人間
第２分野	○観察記録のまとめの作成や発表により，互いの考えを理解し合う。 (例)大地の成り立ちと変化	○生物とそれを取り巻く自然の事物・現象について，主体的に進んで学ぼうとする。	○自然の事物・現象に関する様々な情報を収集・理解して課題解決に活用する。 (例)気象とその変化	○生命を尊重する心情をはぐくむとともに，自然環境を大切にし，その保全に寄与した生き方をしていこうとする。 (例)動物の生活と生物の変遷 生命の連続性 自然と人間

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

５　音楽

①　教科の目標

・①音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。②多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。③多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・音楽科では、生徒が音楽を表現したり鑑賞したりする活動や体験が、基礎的・汎用的能力とし

ての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」等の育成につながると考えられる。

・音楽には、個と集団とのかかわりから豊かな感性や創造性が育つという教育力がある。音・音楽を通して心の内なるものを表現し合い、交流しあい、認め合う音楽活動は、まさにコミュニケーションそのものであり、個と集団とのかかわりあいが基軸になって展開されるという特性をもっている。

・豊かで創造的なかかわりが、共に学び合い、分かち合う力を育て、このような経験を通して身に付いたものが生きる力となって、生涯にわたって音楽とかかわるためのエネルギーになっていくと考えられる。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する音楽科の指導内容の例】

学年／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	・声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて歌ったり，演奏したりする。 ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わう。 ・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，鑑賞する。		・歌詞の内容や曲想を感じ取り，表現したい思いや意図をもち，それを歌唱や器楽で表現する。 ・楽器の音の特性や奏法の特徴をとらえ，自分なりのイメージをもって表現する。 ・表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる。	・我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り，鑑賞する。
第2学年及び第3学年	・声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌ったり，演奏したりする。 ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わう。 ・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞する。		・歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌ったり，演奏したりする。 ・表現したいイメージをもち，音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる。	・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，鑑賞する。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

6　美術

①　教科の目標

・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

② キャリア教育の取組み

・中学校美術の表現の学習は、表したいことを基に、思考・判断し、表現する創造的な課題解決学習そのものである。また、感じ取ったことや考えたことなどを自分の感覚で自由に表現する活動は、自己を確認したり、新たな自分を発見したりすることでもある。特に、自己の内面を見つめることは、価値観を構築していく思春期の中学生にとって重要であり、肯定的な自己理解を促す機会になる。

・鑑賞の学習では、自然や身の回りの造形、美術作品などから良さや美しさを感じ取り、心を豊かにしていく。これは、知識を詰め込むものではなく、思いを巡らせながら対象との関係で自分の中に新しい価値観を作り出す創造活動である。その活動では、作品等に対する思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりすることで、自分一人では気付かなかった価値等に気付くことができるようにすることが重要である。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する美術科の指導内容の例】

学年／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	・生活における美術の働きなどを感じ取る。 ・作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして，対象の見方や感じ方を広げる。	・自分の表したいことを具現化できるように表現の効果などを考えながら，計画を立てて表現する。	・表したい主題について，形や色彩，材料などを構成し，表現の効果を踏まえてどのように表現するのかなど構想を練る。	・作品が表している内容や，形，色彩，材料，表現方法などから，自分として根拠をもって読み取る。
第2学年及び第3学年	・感じ取った作品の良さや美しさなどの価値について，根拠を明らかにして自分の考えを述べたり，生徒同士で批評したりして，自分の気付かなかった作品の良さを発見する。 ・社会性や客観性を一層意識し，目的や条件，機能などを広い視野で総合的にとらえる。 ・内面や全体の感じ，価値や情緒などを感じ取り，外形には見えない本質的な良さや美しさなどをとらえる。	・材料や用具，表現方法の特性を効果的に活用するために，制作の順序や見通しをもって表現する。 ・制作の見通しをもちながら自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫して表現する。	・生徒一人一人がイメージを広げ，表したい主題を形や色彩，材料などを客観的な視点をもって効果的に活用できるよう構想を練る。	・作者を取り巻く芸術の潮流や人間関係など一人の人間として人間性や生き方に触れるなどする。 ・美術を生活や社会，歴史などの関連で見つめ，自分の生き方とのかかわりでとらえ，鑑賞を深める。 ・主題に基づきながら作品の背景を見つめたり，自分の生き方とのかかわりでとらえたりする。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月）

7　保健体育

① 教科の目標

・心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

② キャリア教育の取組み

・「生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことを究極の目標とする保健体育科においては、キャリア教育と密接に関連する多くの指導内容がある。

・保健体育科を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の基盤として極めて重要である。

・保健体育の中で、例えば、2012年度からすべての生徒が学習することになった武道の学習の過程で、防具や用具の準備や片付け、審判などの分担した役割を果たすことも、社会生活を過ごす上で必要な責任感を育てることにつながる。

・相手を尊重し合うための独自の作法や所作を守ること、仲間の学習の援助を通して仲間との連帯感を高めること等、武道の学習を通して身に付ける力は生涯にわたって生かされるものである。キャリア教育の視点から武道の指導を捉えることにより、これらの特質が一層生かされる。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例（武道に焦点を当てて）】

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
体育分野	・審判の判定や勝敗の結果を受け止め，ルールやマナーを守ることや自分のことだけでなく共に学ぶ仲間に対して必要な支援をすることに積極的な意志をもつ。 ・話合いなどでグループの学習課題等についての意思決定をする際に，相手の感情に配慮して発言したり，仲間の意見に同意したりしてグループの意思決定に参画する。	・運動を通して，人の体や心の状態には個人差があることを把握する。 ・自己の体調の変化に気を配ったり，用具や場所の安全に留意したりする。 ・自己の体調の変化に応じて段階的に運動をしたり，用具や場所の安全を確認したりする。 ・健康や安全を確保するために，体調に応じて適切な練習方法を選ぶ。	・自己の課題に応じて，学習する技の合理的な動き方について改善すべきポイントを見付ける。 ・自己の課題に応じて，適切な練習方法を選ぶ。 ・提供された作戦や戦術から，自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ。 ・仲間に対して，技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。	・様々な運動において実生活で継続しやすい運動例を選ぶ。 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける。
保健分野	・異性の尊重，性情報への対処など思春期における適切な態度や行動選択について考える。 ・飲料水･空気，生活に伴う廃棄物の衛生的管理と人々の健康との関連を考える。	・身体機能の発達や発育。 ・発達の個人差などについて理解する。 ・精神機能の発達と自己形成，欲求やストレスへの対処と心の健康などについて理解する。	・生活行動･生活習慣と健康，喫煙･飲酒･薬物乱用と健康，感染症の予防などについて課題を発見し，解決方法を考える。 ・交通事故や自然災害による傷害の防止等の方策について考える。	・保健・医療機関の有効活用，個人の健康を守る社会の取組などについて理解を深める。
武道	・自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方があることを理解し，取り組めるようにする。（1．2年） ・投げ込みや打ち込みの相手を引き受けたり，運動観察などを通して仲間の課題を指摘するなど教え合ったりしながら取り組もうとする。（3年）	・体調の変化などに気を配ること，危険な動作や禁じ技を用いないこと，用具の安全や練習及び試合場所での自己や仲間の安全に留意することや，技の難易度や自己の技能・体力の程度に応じて技に挑戦する。（1．2年）	・自己の技能，体力の程度に応じた得意技を見付ける。 ・提供された攻防の仕方から，自己に適した攻防の仕方を選ぶ。 ・仲間に対して，技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。（3年）	・武道を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける。（3年）

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

８　技術・家庭

①　教科の目標

・生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

・技術分野：ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

・家庭分野：衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・技術・家庭科では、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせる等、充実感や成就感を実感させるとともに、学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解にも触れる等、自ら課題を見いだし、解決を図る問題解決的な学習を一層充実させることが重要とされている。

・技術分野の学習は、工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度などを併せて醸成するものであり、それは、これからの社会で主体的に「生きる力」の育成を目指して展開されるものである。

・家庭分野の学習では、特に、中学生の時期は、生徒が生活の自立を目指す中で、人々に支えられて生活していることに気付くことや、自分も家庭生活を支える一員としての自覚をもち、生活をより良くしようとする態度を育成することが大切である。

（参考：文部科学省「中学校学習指導要領解説［ 技術・家庭編 ］」2008年7月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する技術・家庭の指導内容の例】

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
両分野	○製作や実習等を通して協調性・責任感をもつ（自他の役割の理解と遂行）。	○仕事の楽しさや完成の喜びを味わう。 ○充実感や成就感を実感する。	○問題解決能力（生活を工夫し創造する能力）をもつ。 ○原因や課題を見付け，その課題を解決するために工夫する。	○学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解に触れる。
技術分野	○技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割や，環境との関係について考える。 ○情報モラルについて考える。	○緻密（ちみつ）さへのこだわりや忍耐強さなどを育てる。 ○技術を適切に評価し活用しようとする。	○目的や条件に応じて設計・計画できる。 ○情報手段を主体的に選択し活用する。 ○技術の適切な評価・活用について考える。	○技術にかかわる倫理観や新しい発想を生み出し活用しようとする態度をはぐくむ。 ○職業観や勤労観をはぐくむ。
家庭分野	○家族や社会の一員としての自覚や役割をもつ。 ○周囲の人々とのかかわりや人間関係の大切さを理解する。	○より良い家族・家庭や社会（の生活）をつくるために，現在自分ができることを見直し，さらに必要な力をつけて生活に役立てようとしている。	○生活を見直し，課題をもって活動を工夫し，計画を立てて実践する。	○家庭や地域で実践する意義に気付く。 ○家庭や社会の一員として，自己実現に向けて生活の自立をめざす。 ○環境に配慮した消費生活について工夫し実践する。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

９　外国語（英語）

①　教科の目標

・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・外国語（英語）科では、言語や文化に対する理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりすることとともに、聞くことや読むことにおいて、話し手や書き手の意向を理解することや、自分の考え等を話したり書いたりすることを重視している。

・外国語（英語）の学習は、人間関係を基本にした言語活動から成り立っている。他者とのコミュニケーションを通して、自己理解や他者理解を深め、お互いを尊重しあう態度を育成していく。

・このような学習の積み重ねが、キャリア教育の充実を図るための、社会的自立や職業的自立を目指したその基盤となる「基礎的・汎用的能力」の育成につながる。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する外国語 (英語) 科の指導内容の例】

学年／能力	言語活動としての話題	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から，簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。	＜聞くこと＞ ・まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。 ＜話すこと＞ ・聞いたり読んだりしたことなどについて，問答したり意見を述べ合ったりすること。	＜聞くこと＞ ・質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 ＜読むこと＞ ・伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。	＜話すこと＞ ・与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。 ・つなぎ言葉を用いるなどの工夫をいろいろして，話を続けること。	＜読むこと＞ ・書かれた内容や考え方などをとらえること。 ＜書くこと＞ ・感想，賛否やその理由を書いたりすること。 ・聞いたり読んだりしたことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。
第2学年	事実関係を伝えたり物事について判断したりした内容などの中から，コミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。	発達の段階に応じた高度化			
第3学年	様々な考えや意見などの中から，コミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。				

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

10　道徳

①　教科の目標

・道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・勤労観や職業観は、日常生活の中での役割や責任の遂行、個人の個性・能力・適性等の発揮、生計維持、規範の遵守等の職業倫理に対する考えや、職業や働くことそのものに対する人それぞれの価値観であるといえる。どのような職業に就き、どのような職業生活を送るかは、人がいかに生きるか、どのような人生を送るかということと深くかかわっている。道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、いずれも、人が社会的・職業的に自立し生きていく上で必要とされるものである。

・キャリア教育が目指す「基礎的・汎用的能力」の育成や、これらの能力育成を通した勤労観・職業観等の価値観形成のためには、その基盤となる自己の判断基準となる価値観形成が求められる。価値観は、道徳性の発達を促す道徳を通して道徳的価値観を自覚させることで再構築さ

れる。例えば、自己を見つめ自己を理解する、周囲とのより良い人間関係を築く、体験活動の意義や学びの価値に気付く等、道徳を通して醸成された価値観により、より良く生きようとする意欲や態度は、生徒自身の自発的、自律的な道徳的行為の原動力につながる。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する道徳の指導内容の例】

勤労観・職業観等の価値観			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
礼儀　2－(1) 思いやり　2－(2) 信頼，友情　2－(3) 異性理解　2－(4) 寛容，謙虚　2－(5) 感謝　2－(6) 権利，義務　4－(1) 公徳心，社会連帯情報モラル　4－(2) 正義，公正公平　4－(3) 集団生活の向上，役割，責任　4－(4) 勤労の意義と尊さ，奉仕の精神　4－(5)	望ましい生活習慣　1－(1) 強い意志　1－(2) 自主・自律　1－(3) 理想の実現　1－(4) 自己理解，個性の伸長　1－(5) 生命尊重　3－(1)	生命尊重　3－(1) 自然愛護　3－(2) 人間の気高さ　3－(3) 家庭生活の充実　4－(6) よりよい校風の樹立　4－(7) 郷土の発展への貢献　4－(8) 伝統の継承と文化の創造への貢献　4－(9) 国際社会への貢献　4－(10)	強い意志　1－(2) 自主・自律　1－(3) 理想の実現　1－(4) 自己理解，個性の伸長　1－(5) 権利，義務　4－(1) 役割，責任　4－(4) 勤労の意義と尊さ　4－(5)

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

11　総合的な学習の時間

①　教科の目標

・横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・総合的な学習の時間においては、学習の成果から達成感や自信をもち、自分の良さや可能性に気付き、自分の人生や将来、職業について考えていくことが大切である。また、「自己の生き方を考える」ことが、「キャリア教育」の狙いでもある「社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度の育成」につながっていくものと考えられる。

・職業や自己の将来にかかわる課題を取り上げ、具体的な体験活動や調査活動、仲間との話合いを通して探究的に学ぶ機会をもつことは、生徒が自己の生き方を具体的、実際的なものとして考えていくことにつながる。このことは、自己の将来を力強く着実に切り開いていこうとする資質や能力、態度の育成において極めて重要なものである。

・中学校以降のキャリア教育推進において重要なのは、社会や経済の仕組みを知識として学ぶこ

とと体験を通して学ぶことの両面から、現実社会の厳しさも含めて、一人一人の将来に実感のあるものとして伝えていくことであると考えられる。このことからも、中学校における職場体験活動等の体験的な学習活動は、キャリア教育の視点から重要な役割を果たすものとして位置付けられる。

・進路の選択を迫られる場面を迎える義務教育修了段階である中学校において、働くことや職業を自分とのかかわりで考えることや、自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習となる。職場体験活動等の自己の将来にかかわる体験活動は、社会人・職業人として自立できる人間を育てるキャリア教育に直接結びつく重要な学習である。

・総合的な学習の時間においては、単に体験活動を取り入れるだけでなく、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考える等の学習活動が行われるようにすることが欠かせない。

（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

中学校におけるキャリア教育の状況と課題

中学校におけるキャリア教育推進にはいくつもの課題がある。「勤労観・職業観の育成」が重視されるあまり、「キャリア教育＝職場体験」という考え方が根強く、職場体験が終わると今年度のキャリア教育は全て終了と捉える傾向がある。外部人材の活用では、組織として受け入れる手法が未だ十分に成熟しておらず、負担感のみが増大し踏み出せずにいる。

キャリア教育は、全教育活動を通じて社会人として必要な基礎的・汎用的能力を育成するものと認識されれば、校長の学校経営方針、キャリア教育の年間指導計画、教科指導、外部人材との協働・・・等は大きく変化し、各校でのキャリア教育は格段に前進させる。

キャリア教育推進には、教育活動に「つながり感」を持たせることが極めて重要と考える。学校行事や宿泊行事で３年間を見通したねらいを明確にし、学年行事に関連づけることでより大きな成果が期待できる。各教科指導では、人間関係形成能力や課題対応能力の育成を意図的に位置づけ授業改善を行うことで、幅広いキャリア教育の推進に結びつける。

外部人材との「つながり感」を生かす教育活動では、将来を見据えた生徒の大きな変容が期待できる。いくつかの学校では外部人材を活用し、授業や各種行事を協働で行うケースが見られる。学校経営の視点からも保護者、地域を含めた地域人材の教育参加は、教育の質を向上させるとともに、双方向で教育の当事者意識をもつことになり大きな役割を果たす。特に「職場体験」や「校内ハローワーク」等、地域人材の教育参加は、生徒のキャリアプランニング能力を育成し学校生活の見直しへとつながる。人材確保の分野では、それぞれの地域の実情に応じて、校内に進路指導主任を中心とする折衝チームを組織するなど、各校の工夫が考えられる。外部人材の指導力や専門的な業務経験を教育に生かすため、いかに授業や学校行事に結び付け教育効果を上げていくのか、正に各校の手腕が問われている。

諏訪台中学校校長　清水　隆彦

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する総合的な学習の時間の
学習において育てようとする資質や能力及び態度の例】

分野／能力	人間関係・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学習方法に関すること	・相手や目的，意図に応じて，論理的に表現する。	・複雑な問題状況における事実や関係を把握し，自分の考えをもつ。	・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・目的に応じて手段を選択し，情報を収集する。	・学習の仕方や進め方を振り返り，学習や生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	・自らの行為について責任をもって意志決定する。	・自らの生活の在り方を見直し，日常的に実践する。	・目標を明確にし，課題の解決に向けて計画的に行動する。	・自己の将来を考え，夢や希望をもつ。 ・目標を明確にし，課題の解決に向けて計画的に行動する。
他者や社会とのかかわりに関すること	・異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する。 ・互いの特徴を生かし，協同して課題を解決する。	・互いの特徴を生かし，協同して課題を解決する。	・課題の解決に向けて社会活動に参画する。	・環境の保全を考えて行動する。

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

12　特別活動

①　教科の目標

・望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

（出典：文部科学省「中学校学習指導要領」2008年３月）

②　キャリア教育の取組み

・特別活動は、生徒が学級集団をはじめとする学校内の様々な集団に所属し、その中で互いに理解し合い、高め合い、個人と個人、個人と集団、集団相互が互いに作用し合いながら、集団活動や体験的な活動を進め、それぞれの生徒が全人的な発達を遂げ、また、所属する集団自体の改善・向上を図っていくものである。

・特別活動は、将来において個人が社会的な自己実現を図るために必要とされる資質の育成、さらに自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養うこと、そして、人間としての生き方の自覚と自己を生かす能力の育成を目指すものである。

・学級活動における「学業と進路」は、キャリア教育の中核的な実践の場としての役割を果たす。また、学級活動の他の内容も、キャリア教育に深く関連し、生徒会活動や学校行事もキャリア教育として重要な内容を多く包含している。

・「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とする特別活動の各内容に、着実に取り組み、今まで以上に学校教育全体で学んだキャリア教育に関する知識を統合し、深化させ、体験的に実践

していくことが、キャリア教育実践の推進に向け、特別活動に強く求められている。
（参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年3月を基に作成）

【「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する特別活動の指導内容の例】

活動／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学級活動	・社会の一員としての自覚と責任 ・望ましい人間関係の確立 ・男女相互の理解と協力 ・食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 ・学級の組織づくりや仕事の分担処理	・自己及び他者の個性の理解と尊重 ・思春期の不安や悩みとその解決 ・心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 ・性的な発達への適応	・学級や学校における生活上の諸問題の解決 ・学校における多様な集団の生活の向上 ・進路適性の吟味と進路情報の活用	・ボランティア活動の意義の理解と参加 ・学ぶことと働くことの意義の理解 ・自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 ・望ましい勤労観・職業観の形成 ・主体的な進路の選択と将来設計
生徒会活動	・好ましい人間関係を深めるための活動 ・学校生活における規律と良き校風の確立のための活動 ・異年齢集団による交流	・生徒の教養や情操の向上のための活動 ・学校行事への協力	・身近な問題の解決を図るための活動 ・生徒の諸活動についての連絡調整	・環境の保全や美化のための活動 ・ボランティア活動などの社会参加 ・生徒会の計画や運営
学校行事	・共に助け合って生きることの喜びの体得 ・校外における集団活動にて教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係を経験	・安全な行動や規律ある集団行動の体得 ・責任感や連帯感の涵養 ・生涯にわたり，文化や芸術に親しむための豊かな情操の涵養	・集団のきまりや社会生活上のルール，公衆道徳などの体験 ・前年度の計画の見直しと課題解決のための立案	・勤労の尊さや創造することの喜びの体得 ・職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験 ・ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験

（資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年３月）

◆第２節　キャリア教育の授業開発

中学校のキャリア教育の中心になる科目は、特に「特別活動（学科活動）」、「総合的な学習の時間」及び社会「公民的分野」である。

１　「特別活動（学級活動）」の指導要領及びその解説

⑴　目標

・学級活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

⑵　内容

・学級を単位として，学級や学校の生活の充実と向上，生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと。

・学業と進路

ア　学ぶことと働くことの意義の理解

ウ　進路適性の吟味と進路情報の活用

エ　望ましい勤労観・職業観の形成

オ　主体的な進路の選択と将来設計

・生徒が、自己の将来に夢や希望を抱き、意欲的かつ主体的に学習に取り組むとともに将来の生き方や進路に関する体験を得たり、情報の活用を図ったりしながら、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意志と責任で考え、選択していくことは、中学生にとって極めて重要なことである。また、生徒が、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人が，学ぶこと、働くこと、そして、生きることについて自己の問題として真剣に受け止め、それぞれの深い結びつきを理解していくことが必要である。

ア　学ぶことと働くことの意義の理解

具体的には、充実した人生と学習、学ぶことや働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業などについて題材を設定し、保護者や卒業生など自分の身のまわりの人、働きながら学んでいる人、地域の職業人、あるいは生涯学習に取り組む人々などの体験談などを取り入れながら、自分なりの考えをまとめ、発表したり、話し合ったり、ディベートを行ったりする活動などが考えられる。

職場体験と関連させ、それらの事前，事後の指導として、生活や社会、職業や仕事、将来の進路などについて考えさせ、話し合う取組もある。さらに、卒業時期には、今までの学びを振り返り、社会的自立と自己実現を深めていく活動の展開なども考えられる。ウ　進路適性の吟味と進路情報の活用

生徒が自分のよさに気付き、伸ばそうという意欲がもてるよう、多面的に自分自身を見つめ自分を知る活動、友人の理解を通して自分を知る活動、そして職業適性などから客観的に自分を知る活動などが考えられる。また、そのような自己の個性の理解に基づいて、自分のよさを発揮し、個性を伸ばす進路を探索するために、当面する進路に関する情報を収集し、整理して、自分や友人が活用できる資料としてまとめる活動などが考えられる。具体的には、自分のよさ

の発見、職業と適性などについて題材を設定し、自分の興味・関心、得意な教科の学習や活動、性格や行動など多面的に自分自身を見つめたり、生徒が互いのよさを見つめ合い、確かめ合ったりする活動の展開、あるいは職業適性検査等を活用して、個性を生かす職業について考える活動の展開が考えられる。また、生き方を学ぶ、進路に応じた学習機会の選択、学校調べなどについて題材を設定し、地域の社会人や職業人の講話を聞いたり、勤労や奉仕の体験を通して、生き方や進路の多様性を理解する活動の展開、あるいは上級学校を訪問、見学したり、体験入学をして，その結果をまとめて発表したりする学習の展開が考えられる。

エ　望ましい勤労観・職業観の形成

自己と社会とのかかわりを考える中学生の時期をとらえ、生徒が、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度をもつことができるよう、内容を取り上げることが大切である。具体的には、自分の役割と生きがい、働く目的と意義、身近な職業と職業選択などの題材を設定し、調査やインタビューをもとに話し合ったり、発表やディベートを行ったりするなどの活動の展開が考えられる。また、学校行事などとして実施する地域の職業調べや事業所・福祉施設等における職場体験や介護体験、あるいは職業人や福祉団体関係者を招いての講話等との関連を図りながら、それらの事前。事後の指導として、調査、話合い、感想文の作成、発表を行うなどの活動の展開も考えられる。

オ　主体的な進路の選択と将来設計

将来の生活における職業人、家庭人、地域社会の一員などとしての役割や活動及びその変化を知り、生徒が将来の生活を具体的に描いてみる活動や、将来設計を進路計画として立案する活動などが考えられる。また、進路計画の実現を目指して、生徒が、卒業後の進路選択の問題を自分自身の課題として受け止め、自ら解決するために、例えば、高等学校進学の志望校選択などに当たって何を知り、どのように考え、いかに行動すべきかなどについて検討する活動なども考えられる。具体的には、自分の夢や希望、人生と生きがい、３０年後の私などについて題材を設定し、地域の職業人や福祉団体関係者の講話と感想文の作成、発表、話合いといった活動の展開、ライフプランの作成や進路計画を立案し、発表する活動の展開などが考えられる。特に、３年生の時期にあっては、志望校・希望職業の選択、進路の選択と私の悩みなどについて題材を設定し、志望校の選択について、進学目的の明確化、目的実現のための選択肢（各学校・学科の特色など）の理解、各選択肢で求められる選択の条件や必要な努力についての理解、選択理由の明確化、選択の結果とその受け止め方など、選択のためのスキルを学ぶ活動の展開なども考えられる。

（参考：文部科学省「中学校学習指導要領［特別活動］」２００８年３月及び
「中学校学習指導要領解説」２００８年７月を基に作成）

２　中学校「総合的な学習の時間」の指導要領及びその解説

⑴　目標（再掲）

・横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

⑵　内容

・育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。

・職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探求活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。

→「働く人から学ぼう」という単元であれば、生徒は身近で働く人を探そうとする。この場面では、身の回りで働いている人を探し、直接会って話を聞こうとする。また、家族の働く姿からその意味を考えようとする。ここで生徒は、身の回りにはたくさんの職業があることや多くの人が熱心に働いていることに気付くであろう。また、失礼のない電話連絡の方法を身に付けたり、正式に依頼状を出す方法を学んだりする。

→働く人への関心が高まると、生徒の目的は、実際に働いてみたいと考えるようになる。ここでは、実際に現場に出かけ、働くことを実体験することが重要である。見学するだけでなく、仕事を受け持ったり、仕事を手伝ったりする。そして、働く人の思いや願いについて考えさせることが重要である。必要に応じて、インタビューしたり、話を聞いたりして、働くことの意義や満足感、達成感を実感することも大切である。そのためにも、事前準備を十分に行い、目的を明確にして職場体験活動を行うことが求められる。また、実際に体験できない職業や身近にはない職業について考えることも大切であり、教師が必要に応じて資料を提供し、生徒の視野を広げるように心がけることも必要である。

→職場体験活動を終えると、生徒は互いの体験の様子を知りたいと思い、どのような職場で、どのような体験をしてきたのかを情報交換しようとする。互いの体験の様子を交流する中で、社会には多様な仕事があることに気付く。また、社会の仕組みや一つ一つの職業が大切な役割を果たしていることにも気付く。このことが、働くことの意義を理解することや自分の将来に対する夢や可能性を抱くことにつながる。このような生徒の変容を促すためには、社会に出て働くことの意味を考える講演会などを実施することが考えられる。誠実に働く人の姿や仕事にかける情熱を知ることで、それぞれの生徒が出会った人の思いや願い、夢や生きがいをはっきりと捉えられることにつながる。

（参考：文部科学省「中学校学習指導要領 [総合的な学習]」
2008年３月及び「中学校学習指導要領解説」2008年７月を基に作成）

３　中学校社会「公民的分野」の学習指導要領及びその解説

⑴　目標（再掲）

・現代の社会事象に関する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

⑵　内容

・社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。

→職業の意義や雇用などについては、それが家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、個人と社会とを結び付け、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支えるという意義があることについて考えさせる。

→家計を維持・向上させる上で、雇用と労働条件の改善が必要であることについて気付かせ、

産業構造の変化や就業形態の変化、「現代日本の特色」についての学習などと関連付けながら考えさせることが大切である。

→勤労が国民の権利であり義務であることや職業選択の自由が保障されていることと関連付けて考えさせるとともに、正しい勤労観や職業観の基礎を培うことが必要である。

→労働条件の維持・改善及び経済的地位の向上を図ることを主たる目的として労働者が自主的に組織する労働組合の意義や労働基準法が労働者が人たるに値する生活を営むための最低の基準を定め、労働者を保護しようとしていることと関連付けて考えさせることが必要である。

（参考：文部科学省「中学校学習指導要領 [社会：公民的分野]」2008年３月及び「中学校学習しょ指導要領解説　社会編」2008年７月を基に作成）

４　授業のテーマ例

①　学ぶことと働くことの意義の理解
②　進路適性の吟味と進路情報の活用
③　望ましい勤労観・職業観の形成
④　主体的な進路の選択と将来設計
⑤　総合的な学習の時間